

重点プロジェクト評価シート

【施策の概要】

登録者(課長)名【1】 企画政策課長 森本 潔

施策名【3】		施策の目標【8】		主管課(関係課)【2】	
ふれあいサポートプロジェクト		コミュニティの醸成と互助・共助のしくみをつくります。		企画政策課(危機管理室、生活福祉課、高齢者支援課、児童青少年課、子ども家庭支援センター、協働コミュニティ課)	
概要	施策のコンセプト【33】	評価の視点【34】	説明		
	「みんなで支えあうまち」を目指して、市民一人ひとりが協力しあって、安心して暮らせる社会をつくります。	ふれあいのまちづくり事業への支援	・小学校区を拠点とした、ふれあいのまちづくり事業を支援していきます。		
		安心・安全のためのしくみづくり	・地域の中で安心・安全に暮らすことができるよう、防災や防犯のための自主的な市民組織づくりを推進します。		
		困りごとなどへのサポートのしくみづくり	・子育て、ボランティアなどサポートのしくみを確立します。 ・ファミリー・サポート・センターなどのしくみを活用します。		
		市民意識調査の満足度・重要度の領域	・「ボランティアの育成など地域福祉の推進」「市民主体のコミュニティ活動の支援」を本プロジェクトの市民意識の領域とします。		
	留意すべき点(都などの制度の変化・その他制約条件・社会環境の変化)【9】				
東日本大震災以降、地域コミュニティの重要性が高まってきていると言われています。					

【施策の成果】

				年度	19	20	21	22	23	24	
成果指標	指標1	事業名	小地域での総合的地域ケアシステムの整備	指標名	ふれあいのまちづくり事業懇談会 延参加者数	実績値	16,672人	15,237人	10,208人	17,116人	17,936人
		説明	社会福祉協議会に委託して小学校区を拠点とした、福祉・介護に関するふれあいのまちづくり事業を展開し、多くの市民の参加を推進します。これらの参加を通じて、市民自らによる介護・福祉のまちづくりを進めます。								
	指標2	事業名	地域福祉活動拠点の整備	指標名	地区拠点整備数	実績値	3箇所	4箇所	4箇所	4箇所	5箇所
		説明	社会福祉協議会に委託して小学校区を拠点とした、福祉・介護に関するふれあいのまちづくり事業を展開するために、地区ごとの活動拠点を整備することを目指しています。								
	指標3	事業名	ファミリー・サポート・センターの運営	指標名	ファミリー・サポート・ファミリー会員数 ファミリー・サポート・サポート会員数	実績値	1,072人 150人	1,292人 171人	1,388人 188人	1,561人 222人	1,700人 229人
		説明	地域の子育て支援を目的として、子どもを預けたい方と預かりたい方がお互いにファミリー・サポート・センターの会員となり、相互援助活動を行ないます。また、これらの活動を通じて、一時的に育児の手を必要とする家庭を支援する基盤が、地域全体に整備されます。								
	指標4	事業名	自主防災組織活動への支援	指標名	防災市民組織の登録団体数(再掲安2-1)	実績値	71団体	74団体	74団体	72団体	74団体
		説明	防災市民組織が組織されることによって、市民が自主的に地域での防災活動を行うようになります。また、防災組織での活動を通じて、防災意識が高まり、地域で助けあう防災基盤が整備されます。								
	指標5	事業名	安心安全なまちづくりの推進	指標名	防犯活動団体の登録団体数	実績値	31団体	36団体	37団体	39団体	40団体
		説明	地域での防犯団体の登録数を増やすことで、地域内における安心安全なまちづくりが展開されます。また、防犯団体の活動を通じて、防犯意識が高まり、地域での防犯基盤が整備されます。								

【市民意見】【13】

19年度		22年度		24年度	
満足度(%)	16.3%	満足度(%)	16.8%	満足度(%)	15.2%
満足度(平均ポイント)	-0.07	満足度(平均ポイント)	-0.07	満足度(平均ポイント)	-0.03
重要度(%)	66.0%	重要度(%)	65.4%	重要度(%)	55.9%
重要度(平均ポイント)	0.83	重要度(平均ポイント)	0.81	重要度(平均ポイント)	0.58

各年次の市民意識調査で、本プロジェクトの市民意識調査の領域の「満足、やや満足」「重要、やや重要」の合計値として算出しています。

【一次評価】

検証項目	施策の成果と課題	施策成果の目標達成状況【14】	<input type="checkbox"/> まだ未達成	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	<input type="checkbox"/> 目標を大きく上回る
		意識調査での満足度【15】	<input type="checkbox"/> 平均を下回る	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ平均	<input type="checkbox"/> 平均を上回る
施策の成果と課題 (取組成果や目標達成に向けた課題、成果向上・コスト削減策等) 【16】		<p>◇「ふれあいのまちづくり事業への支援」については、小学校区ごとの地域福祉に係る様々な活動に対して社会福祉協議会を通じて支援してきましたが、活動をしている方々の固定化や高齢化などの課題があります。また、活動拠点の整備に関しては、平成23年度に1箇所追加し、合計5箇所となりましたが、市内全域には整備が進んでいない状況です。</p> <p>◇「安心・安全のためのしくみづくり」については、防災・防犯をキーワードに地域コミュニティに対する市民意識の高揚を図っていますが、防災市民組織や防犯市民組織の組織数が伸び悩んでいる状況です。地域で高齢者を見守るささえあいネットワークにおいては、協力員数及び見守りが必要とする利用者数も年々増加してきているが、高齢者人口も増加しているため、さらに拡充していく必要があります。</p> <p>◇「困りごとなどへのサポートのしくみづくり」については、ファミリー・サポート・センターにより身近な地域での育児の相互援助活動を促進するとともに、平成21年度までの病後児保育に加えて平成22年度からは病児保育事業を実施し、子育てと就労の両立を支援しています。また、ボランティア・市民活動支援センターの運営により、市民のボランティア活動への理解と参加を広めています。</p>			
検証項目	今後の方針	施策の重要性の変化【17】	<input type="checkbox"/> 弱くなっている	<input type="checkbox"/> 以前と同程度	<input checked="" type="checkbox"/> 強くなっている
		意識調査での重要度【18】	<input checked="" type="checkbox"/> 平均を下回る	<input type="checkbox"/> ほぼ平均	<input type="checkbox"/> 平均を上回る
今後の方針 (具体的な事業群や事務事業を示しながら) 【19】		<p>◇地域の課題解決方向上に向けての仕組みとして「ほっとするまちネットワークシステム」を平成22年度から実施いたしました。このネットワーク事業のつなぎ先の一つである地域の居場所づくりの役割を持つ「ふれあいのまちづくり事業」活動の活性化を図っていく必要がある。空き店舗や空き家など地域福祉活動の拠点として活用できる場の発掘に引き続き努めるとともに、所有者や経営者などの申し出や協力の承諾があった場合の福祉的活用のしくみを検討します。</p> <p>◇「安心・安全のためのしくみづくり」については、西東京市地域コミュニティ検討委員会中間報告(平成24年3月)を踏まえ、地域コミュニティ再構築と連携を図り、防災市民組織・防犯市民組織の維持・拡充に努めます。また、一人暮らし等の見守りが必要とする高齢者に対して、ささえあいネットワークの周知に努めます。高齢化が一層進展し、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者等も急増していく中、高齢者の孤立化を防ぎ、安心して継続して生活できるようにしていきます。見守りの役割を明確にし、地域のネットワークを張り巡らせる連携の一つとして、ささえあいネットワークへの参加者の裾野を広げ、いざという時に機能するために、見守る人も見守られる人も多くの人が参加するしくみとなるように、今後は自治会・町内会・事業所等に働きかけ拡充を図っていきます。</p> <p>◇「困りごとなどへのサポートのしくみづくり」については、ファミリー・サポート・センターや病児・病後児保育事業をより多くの市民に周知し、より使いやすい制度にするための検討を行っていきます。また、市民協働推進センターやボランティア・市民活動支援センターについては、機能分担を踏まえつつ、効果的に事業を展開していきます。</p>			
総合評価	施策内容の方向性【20】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 絞込み	
	施策実施コストの方向性【21】	<input type="checkbox"/> 重点化	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 効率化	
	施策実施方針【22】	V	コスト、成果ともに現状を維持すべき施策領域		

【一次評価後の事情変更等】

説明【23】	
--------	--

【行革本部評価】

総合評価	施策内容の方向性【20】	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 絞込み
	施策実施コストの方向性【21】	<input type="checkbox"/> 重点化	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 効率化
	判断理由等【24】	<p>市民意識調査では、現状に対する満足度は平均的な水準である一方、将来における重要度は相対的に低いという評価となっています。</p> <p>しかしながら、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機に、地域のコミュニティによる共助の重要性はこれまでにない高まりを見せていると言え、市としては、共助の体制を整えることの重要性は非常に高いと考えています。</p> <p>このため、これについては取組み内容を拡充し、地域コミュニティの形成を支援するとともに、これを防災市民組織と連携した組織へとするための支援を行っていくこととしますが、コストについては市民意識調査結果を踏まえ、現状計画ベースを維持することとします。</p>		
施策実施方針【22】	II	コストは現状を維持しながら、成果をあげるべき施策領域		